

第3回ブラハ・アコーディオンデイズ親善演奏を終えて

2007年11月2日(金)～3日(土)ヨーロッパ中欧の国、チェコ共和国ブラハ市内で(ブラハアコーディオンデイズ実行委員長バヴェル・シュヴァック氏)第3回ブラハ・アコーディオンデイズが開催された。11月2日(金)14:30～(現地時間)アコーディオンフェスタ オープニング(クレメンティヌムにあるサルバートル教会)でベローズフェロー(代表:西辻善則)が演奏。パーティで、JAA(NPO法人日本アコーディオン協会 事務局次長 鶴見篤子氏 理事 柴崎和圭氏 理事 西辻善則氏)とチェコアコーディオン協会会長、スロバキア協会会長、ブラハアコーディオンデイズ事務局長と約1時間、懇談し、日本とチェコのアコーディオン情報を交わした。シュヴァック氏が「家路」(ドヴォルザーク作曲交響曲第9番「新世界から」第2楽章より)(吉田親家氏編曲)が、心に残る演奏だったと評価している。(写真)

今回は、ヨーロッパの14団体が参加した。電子アコ・ドラム・サックス・ベース等の編成でアコーディオンオーケストラを披露。ハイレベルな演奏を拝聴した。

感嘆した点等いくつかあったので述べることにする。

- ・アコーディオンオーケストラを創りあげる環境があること。音楽の基礎理解は勿論だが、合奏指導の敏腕の指導者がいることでいい演奏ができるように取り組める環境があるのだと思う
- ・アコーディオンを持つ姿勢が統一されている。あるいは、メンバー所有のアコーディオンメーカーが統一されている。
- ・衣装がカラフル 主体性をだしている。
- ・音色が清澄だ。アコーディオンならどんなサウンドでも奏でることができると思った。ポップスオーケストラ、ブラスバンド的な要素があてはまると思う
- ・今回はソロでの演奏がないのでどのくらいのレベルなのか不明である。ボタンアコ・フリーベースも多い。楽器の普及については、スタンダードベースが一般的で音楽学校・専門教育他はボタンアコ・フリーベース所有者ということだろう。

理事 西辻 善則



サルバートル教会のポスター
(Bellows Fellow)



チェコアコーディオン協会会長
シュヴァック氏と